

## ボロノイ線図と地図画像によるリゾート地の圏域分析

4P-4

菅澤喜男、乾 成里、安川史章

日本大学

1. はじめに ボロノイ線図を圏域分析に応用する試みは、様々な領域でなされている。ここでは、リゾート地の圏域分析として、リゾート地における行楽施設あるいは公共施設を母点として分析を行ってみる。

2. リゾート地の圏域分析 分析対象地域としてハワイのワイキキビーチを中心とした地域と沖縄南部のリゾート地を中心とした地域との比較を行った。沖縄のリゾート地は閉鎖的と言われ、リゾート地間の有機的な連がり薄いと言われている。今回の分析は世界のリゾート地と言われるハワイのワイキキビーチを中心としたリゾート地のボロノイ線図と沖縄南部のリゾート地のボロノイ線図を比較することで、リゾート地の開放性と長期滞在型のリゾート地を開発するために必要とされている各種施設を母点とした分析結果を比較した。図1はハワイのリゾート地、図2は沖縄のリゾート地の分析処理結果である。分析結果より明らかにハワイのリゾート地の方がリゾート施設も多く圏域分析も内陸部に及んでいる。内陸部の開発は沿岸域の開発と共に、リゾート地域間を有機的に結び付けるために重要な役割を果たしており、長期滞在型リゾートは多様化した施設を必要とする。

3. おわりに 本研究はリゾート地の各種施設を母点としたボロノイ線図を対象圏域の地図上にその結果を示し、視覚的にアピールする処理結果を示した。

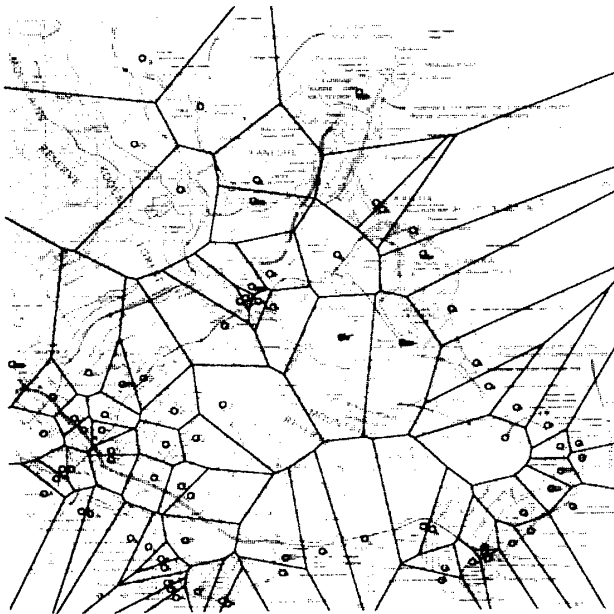


図1. ハワイのワイキキ地域の処理結果

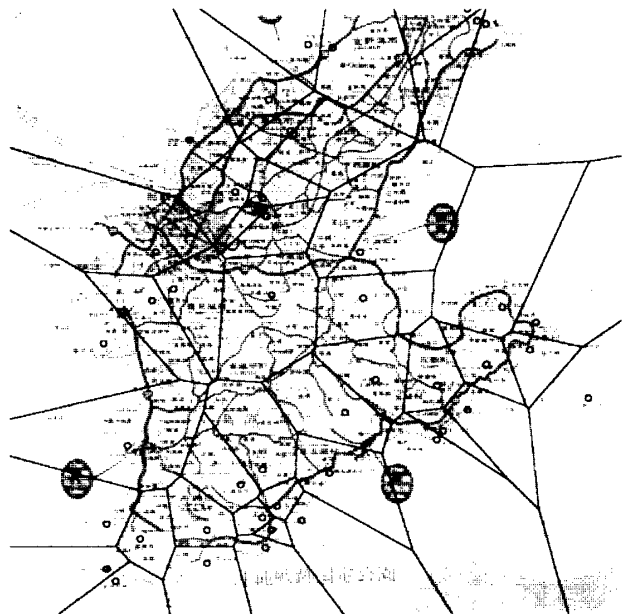


図2. 沖縄南部の処理結果

謝辞：本研究は平成元年度日本大学学術助成金（総合研究）により実施された。

Analysis for a Range of Resort Area by Voronoi Diagram and Map Picture  
Yosio SUGASAWA, Sigeri INUI, Fumiaki YASUKAWA  
Nihon University